

主題：
諸召会における失敗、召会の墮落、
召会における勝利者、召会の回復、召会の各段階

メッセージ 15

召会の各段階

(4)

ヒラデルヒヤに在る召会とラオデキヤに在る召会

聖書：啓 3:7-22

- I. しるしとして、ヒラデルヒヤに在る召会が予表しているのは、19世紀初めに、英国において、主によって起こされた兄弟たちによって回復された正常な召会生活です——啓 3:7-13：
- A. ギリシャ語の「ヒラデルヒヤ」は、「兄弟愛」を意味します——7節：
1. ヒラデルヒヤに在る召会は、兄弟愛の召会、すなわち、正当な召会生活を、予言的に描写しています——7節。
 2. 「わたしたちは死から命へと移っていることを知っています。なぜなら、わたしたちは兄弟たちを愛しているからです。愛さない者は死の中に住んでいます」——Iヨハネ 3:14：
 - a. 死から命へと移ることは、死の源、本質、要素、領域から、命の源、本質、要素、領域へと移ることで、これは、わたしたちの再生の時に、わたしたちにおいて起こりました——ヨハネ 3:3, 5-6. 5:24。
 - b. 兄弟に対する愛（神の愛）は、わたしたちが死から命へと移っていることの強い証拠です——Iヨハネ 3:14。
 3. 「彼はわたしたちのために、ご自分の命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知ったのです。ですから、わたしたちも兄弟たちのために、自分の命を捨てるべきです」——16節：
 - a. 兄弟たちに対する愛は、進んで自分自身をわきに置いて、彼らに仕えることです——ガラテヤ 5:13。
 - b. 兄弟たちを愛するとは、進んで自分自身を否んで、他の人たちを成就し、兄弟たちのために進んで自分自身の命を捨てる心を持つことです。
- B. 兄弟愛の召会に対して、主は聖なる者、真実なる者です。この方によって、またこの方をもって、回復された召会は聖くなり、この世から分離され、神に対して真実であり忠信であることができます——啓 3:7。
- C. 兄弟愛の召会に対して、主はまた、ダビデのかぎ、すなわち、王国のかぎを持つ者であり、開いたり閉じたりする権威を持っています——7節. イザヤ 22:22。
- D. ヒラデルヒヤに在る召会の二つの顕著な特徴は、主の言を守ることと、主の名を否まないことです——啓 3:8。
- E. わたしたちは、ヒラデルヒヤに在る召会が強く、力があると考えべきではありません。主は、彼女が「少しばかりの力」を持っていると言いました。主を喜ばせるのは、わたしたちが彼のために多くのことを行なうことではなく、わたしたちが自分の持っているもので彼のために最善を尽くすことです——8節。
- F. あらゆる異端や伝統から純粋な言葉へと戻ることと、他のあらゆる名を放棄することによって

主の名を高く上げることが、回復された召会における最も感動的な証しです。

II. しるしとして、ラオデキヤに在る召会が予表しているのは、回復した後に墮落した召会です——
14-22 節：

- A. ギリシャ語の「ラオデキヤ」は、「人々の意見や決断」を意味します——14 節。
- B. 主の目に、ラオデキヤの特徴は、なまぬるさと霊的な高ぶりです——16-17 節。
- C. 「わたしはあなたに勧める。あなたが富むために、火で精錬された金をわたしから買いなさい。またあなたがまとして裸の恥を現さないために、白い衣を買いなさい。また見えるようになるために、目に塗る目薬を買いなさい」——18 節：
1. 聖書では、わたしたちの活動し働く信仰(ガラテヤ 5:6)を金にたとえており(Ⅰペテロ 1:7)、神の神聖な性質、すなわちキリストの神性は、金で予表されています(出 25:11)。わたしたちは、信仰によって神の神聖な性質にあずかります(Ⅱペテロ 1:1, 4-5)。
 2. 白い衣は、主に良しとされることができる行為を表徴します。そのような行為は、召会から生かし出されたキリストであり、それは回復した後に墮落した召会が、裸を覆うために必要とします。
 3. 目に塗るのに必要な目薬とは、油塗る霊であるはず(Ⅰヨハネ 2:27)。油塗る霊は、命を与える霊としての主ご自身です(Ⅰコリント 15:45 後半)。回復した後に墮落した召会は、盲目をいやすために、このような目薬を必要とします(参照、ヨブ 42:5-6)。
- D. 「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開くなら、わたしは彼の所に入って行き、彼と共に食事をし、彼はわたしと共に食事をするであろう」——
一啓 3:20：
1. この戸は個人の心の戸ではなく、召会の戸です。
 2. その戸は召会の戸ですが、個々の信者によって開けられます。主は全召会を取り扱っておられますが、主の取り扱いを受け入れて彼を宴席として享受するのは、個人的で主観的な事柄でなければなりません。
- E. 「勝利を得る者を、わたしと共にわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父と共に彼の御座に着いたのと同じである。耳のある者は、その霊が諸召会に言われることを聞くがよい」——21-22 節：
1. ここの勝利を得るとは、回復した後に墮落した召会のなまぬるさと高ぶりに勝利を得ること、代価を払って必要なものを買うこと、戸を開けて主が入って来ることができるようにすることです。キリストは唯一の勝利者として、すべての勝利者たちを含んでいます。
 2. 主と共に彼の御座に着くことは、勝利者への賞であって、それは勝利者が来たるべき千年王国で主の権威にあずかり、主と共に王となり、全地を支配するためです。